

## 拡張語彙力を身に付ける方法

田中茂範

ココネ言語教育研究所

本稿では、語彙力の量を増やすために、体系的で有意義な学習法として話題別の「英単語ネットワーク」の作成を提案します。

単語力がなかなか身につかないという人が多くいます。しかし、単語力ってそもそも何でしょうか。一般的には、単語の数を問題にして、3000語だとか1万語だとか語彙数の多寡で単語力があるかどうかを考えられがちです。でも、漠然と一万語といっても、それがどういう単語力かがわかりませんね。

単語力とは、単語を使い分けて、使い切る力のことです。状況に合った場面でうまい表現を使うことができれば、それは単語力があるということです。単語力をつけるには、単語力がどういうものかイメージ化できるほうがいいですね。では、どういうイメージで捉えればいいのでしょうか。

ぼくは次のように考えています。単語力には基本語力と拡張語力があり、基本語力が単語力の基盤である、そして、基本語力を基盤にして語彙を拡張していくのが拡張語力です。

拡張語力は、必要に応じて拡張していく必要のあるものですが、「話題の幅＋語彙サイズ」と定義することができます。ある特定の分野だけでもすぐに何千という数になるでしょう。しかし、拡張語力では、話題の幅 (thematic range) が大切です。話題の幅とは、政治、経済、教育などいろいろな分野のバリエーションのことです。そして、いろいろな分野について、ある程度の語彙サイズ (vocabulary size) を持つことが必要です。語彙サイズは話題に関する語句の数で、新聞や雑誌を読むのに必要な程度の語彙サイズは身につけたいものです。

拡張語力を身につけるにはどうしたらよいか。この問題を問うたのが本稿です。上記の通り、拡張語力とは「話題の幅＋語彙サイズ」と定義することができます。つまり、いろいろな話題について豊富な語彙の使い方を理解し、自分でも使えるというものです。よく語彙サイズの研究で産出語彙と認識語彙という分け方をします。理解可能な語彙を認識語彙、自分でも使うことができる語彙を産出語彙といいます。ほとんどの人の場合、認識語彙のほうが産出語彙よりも何倍も大きい、という傾向があります。

拡張語力を身につける際、拡張語には名詞が圧倒的な分量を占めることになります。勿論、動詞、形容詞、副詞も重要ですが、話題と直接リンクするのは名詞表現です。

## 有意味学習

どうやってたくさんの単語を覚えていけばよいか。単語学習に万能薬はありませんが、ただ、確信をもっていえることがあります。それは「関連づけて覚える」ということです。関連づけて覚えるというのは学習理論的にみても妥当な考え方です。単語をバラバラに覚えるのではなく、関連づけて覚える。語彙のネットワークを作るということです。

辞書の項目を A から Z まで全部覚えようとする状況を考えてみてください。これだと、品詞的にも意味的にも関連のない語がアルファベット順に並び、その作業に意味を見出すことはできないと思います。仮にその作業を行っても定着は期待できないでしょう。人間はコンピュータと違い、機械的な学習が得意ではありません。というのは、人間は意味に従って行動する存在だからです。学習に機械的学習と有意味学習があるとすれば、有意味学習のほうが定着ということからいえば圧倒的に有利です。

拡張語といっても、どれぐらいの数の単語を覚えればよいのだろうか。こうした疑問を持つ人も多いと思います。本稿では、数よりも必要に応じて語彙を有意味な形で身に付けていくということに関心があります。しかし、一応、どれぐらいの英単語を知っていれば十分か、ということについてぼくの考えを示していきます。

ネイティブスピーカーの語彙数についていろいろな推測が行われており、その数値は 1 万語から 7 万語ぐらいまでまちまちです。ぼくは、英語でさまざま

なタスクをするのに、語彙数としては 15000 語で十分だろうと考えています。語彙には内容語と機能語というものがあり、内容語は開かれた領域で数がこれからも増える可能性があるのに対して、接続詞、前置詞、代名詞などの機能語は閉じた領域でその数が増えることは予想されません。内容語は動詞、形容詞、副詞、それに名詞が含まれます。15000 語は内容語に限った話です。

さて、15000 語という数値は、単なるぼくの直観ではなく、コーパスなどを利用してデータベースを実際に作成してみて判断した数字です。ぼくが内容語について作成したデータベースにおける 15000 語の内訳は以下の通りです。

動詞 1800      形容詞 3400      副詞 1100      名詞 8700

予想通り、圧倒的に名詞が多いですね。意外なのが形容詞の数の多さです。名詞に次いで 2 位になっています。3400 個もの形容詞を知っていれば、その表現の可能性は実に大きいものがありますね。

さて、15000 語の語彙レベルとはどういうもののでしょうか。大学生の中には、それで十分かという学生もおり、実際にサンプルを見せてあげると、語彙レベルの高さに驚きます。ここで、サンプルを示してみます。アルファベットの P の後半あたりから 30 個を取り出し、動詞、形容詞、副詞の例を「単語と日本語の訳語」という形で示したのが以下のリストです。

### 動詞

provoke	起こさせる
pry	せんさくする
purify	清める
quash	鎮める
quench	いやす
radiate	放射する
ramble	ぶらぶら歩く
ratify	批准する
raze	倒壊させる
reanimate	元気づける
reapportion	再分配する
reassign	再び割り当てる
reassure	安心させる

rebut	反駁する
reckon	みなす
reclaim	返還を要求する
recollect	思い出す
reconcile	仲直りさせる
rectify	正す
refinance	再融資する
refurbish	磨き直す
refute	論破する
regress	後戻りする
regurgitate	吐く
rehabilitate	復興する
reimburse	返済する
reiterate	繰り返す
rejig	手直しをする

rejoice	喜ぶ
rejuvenate	若返らせる

resplendent	まばゆい
-------------	------

## 形容詞

prolific	多産の
prolonged	長引いた
pronounced	はっきりした
proportional	比例の
provincial	地方の
provocative	挑発的な
Prudent	慎重な
psychiatric	精神医学の
psychic	超自然的な
puny	ちっぽけな
quantitative	量的な
queer	奇妙な
questionable	疑わしい
quixotic	非現実的な
radioactive	放射性の
rampant	はびこっている
recommendatory	勧告の
recurrent	再発する
reduced	減らされた
refreshed	気分をすっきりさせる
regulatory	制限の
remediable	治療可能な
reproductive	再生の
reputable	評判のよい
reputed	評判の
requested	希望の
resolute	断固とした
resonant	響く
resourceful	臨機応変の才のある
respective	それぞれの
respiratory	呼吸器の

## 副詞

prospectively	先を見越して
psychologically	心理学上
purposefully	目的を持って
Purposely	故意に
putatively	推定では
racially	人種上
randomly	無作為に
rationaly	合理的に
recklessly	向こう見ずに
reflexively	反射的に
refreshingly	元気づけるよう
regionally	地域的に
regrettably	残念ながら
reliably	頼もしく
religiously	信心深く
remarkably	目だって
remotely	間接的に
repeatedly	繰り返して
reproducibly	再生可能な方法で
reputedly	評判では
resolutely	断固として
respectfully	敬意を表して
respectively	それぞれに
responsibly	責任をもって
retroactively	過去に遡って有効で
retrospectively	回顧的に
rhetorically	表現上
ridiculously	ばかばかしいほどに
rightfully	合法的に
rightly	正しく

いかがですか。任意に取りだした 30 個ですが、15000 語といえば、かなりのレベルの語をカバーしていることがお分かりだとおもいます。rectify, regurgitate, prudent, quixotic, putatively, retroactively といった単語は Time Magazine などに出てきそうですね。実際、“a putatively normal lifestyle” だとか “his quixotic experiences in New York” といった表現がありました。ここでは、15000 語という数字を 1 つの目安になるということを押さえておいてください。こうした単語を整理して覚えるさいには、単語の使い方が大切で、そのためには文例の中で用法を確認するという作業が必要です。例えば、動詞の provoke, pry, purify, quash の 4 つを取り上げて用例を示しておきます。

Be careful not to behave in a way that will provoke antipathy from others.  
他人の反感を買うような言動は慎むように

He pryed into her private life with his invasive questions. 彼は個人的な質問で彼女の私生活を詮索した

Villagers purify the water by boiling it. 村人たちは沸騰することで水をきれいにする

She tried to quash the groundless rumor of her best friend. 彼女は親友の根も葉もないうわさを鎮めようとした

## 英単語ネットワークの作成

さて、15000 語あれば量的には機能的な語彙力だといえます。しかし、本稿では、数よりも、実用に供する形で拡張語を増やしていくにはどうすればよいか、ということに関心があります。上の品詞別割合でもわかるように、語彙の中で一番数の多いのは名詞で、拡張語力の鍵は名詞です。名詞がわからなければ話題について話すことはできませんね。学問の世界は、まさに専門用語（名詞）の世界だといえます。もちろん、名詞の使い方については動詞も形容詞も関係してきますが、中心となるのは名詞だということです。

では、どうやって実用的な拡張語力をつけていくか。本稿では、自分が関心のある話題について英単語ネットワーク (English-word network) を作っていくのが有効な方法だと考えています。ここでいう「英単語ネットワーク」はあ

る話題の語彙をネットワーキングした結果得られる「語彙の関連図」のことをいいます。そして、英単語ネットワークを自分の拡張語力にしていくには、それを内在化することで自分の語彙ネットワーク——つまり、メンタル・ネットワーク (mental network) ——にしていく必要があります。つまり、ここで想定している方法を手順で示すと、以下のようになります。

①話題の領域を決める → ②関連した語句のリストを作成する →③リスト化された語句のネットワーキングを行う →④話題別英単語ネットワークの作成を行う→⑤英単語ネットワークをメンタル・ネットワークにしていく

## **学び方を学ぶ (learning how to learn)**

私たちは日本語の駒としてたくさんの語彙を知っており、それを使って、日常を生きています。その「たくさんの語彙」はアルファベット順に整然と並んだ固定リストでは決してありません。私たちの頭の中にある「メンタル辞書 (mental lexicon)」は、ある項目が別の項目を呼び起こすことができるように、話題に柔軟に対応できるハーパーテキストだといえるでしょう。

語彙学習メソッドの前提となるのが、体系的に有意味に学ぶ、ということです。漠然とではなく体系的に、ということが大切です。そして、機械的ではなく有意味に学ぶことが大切です。

小学校の国語の授業では、漢字の書き取りや読み取りのための漢字ドリルというものがあり、全国で小学生たちは、毎日の宿題として漢字ドリルを行っています。これは、体系的な学びの1つの形態です。母語か外国語かではなく、語彙の学習は体系的に行うことが大事です。しかし、体系的であるというだけではだめで、有意味に学ぶということが重要です。漢字ドリルはあまり有意味とはいえないかもしれないですね。有意味であるための条件は、「意味的に関連している」ということです。学習目標としての漢字を脈絡なく次々に覚えていっても、おもしろくないですね。日本語を日常的に使っていること、学習する漢字の数が限られていること、の2つの条件が満たされるため、漢字ドリルは生徒からすれば有意味ではなくても、結果としては役立つと思います。

しかし、日常的に英語を使う機会がなく、学習目標となる単語の数も未定という状況ではどうでしょうか。基本語力と文法力は共通の英語力の基盤なので英語学習者全員が体系的に学ぶといいですね。しかし、拡張語力になると、どの領域(話題)の語句をどれだけたくさん学習したいかには、大きな個人差があるはずです。

こういう状況で、機械的にやみくもの単語を覚えるという方法は効果が期待できません。体系的かつ有意義な学習が必要なのです。体系的といっても、学習語彙を限定してそれを体系的に学ぶということではありません。自分の関心のある領域の語彙をどんどん拡張していくということです。そのための方法として本稿では、英単語ネットワークを作成し、それをメンタルネットワークに変換していくというやり方を提案します。自分の関心領域の英単語ネットワークを作成するという方法は体系的な学び方です。そして、自分の関心領域で使われる語彙ということで、そこでリストされるのはそれ自体でも有意義なものです。

例えば「野球」に関心があるとします。野球で使われる用語は日本語であれば知っているはずです。すると、日本語から英語表現というった具合に思いつく表現をリストするといいですね。英語表現は、Web上で調べることができると思います。例えば、思いつくままリストすれば、以下のようなリストができるでしょう。

「打席」 at bat (AB)、 「打順」 batting order、 「打点」 runs batted in (RBI)、 「三振」 strikeout、 「フォアボール」 base on balls、 「ゴロ」 grounder、 「デッドボール」 hit by pitch、 「安打」 base hit、 「二塁打」 double (two-base hit)、 「満塁」 bases loaded、 「ナイトゲーム」 night game、 「延長回」 extra inning

もちろん、動きを表す動詞表現も整理するといいですね。思いつくままリストしてみます。

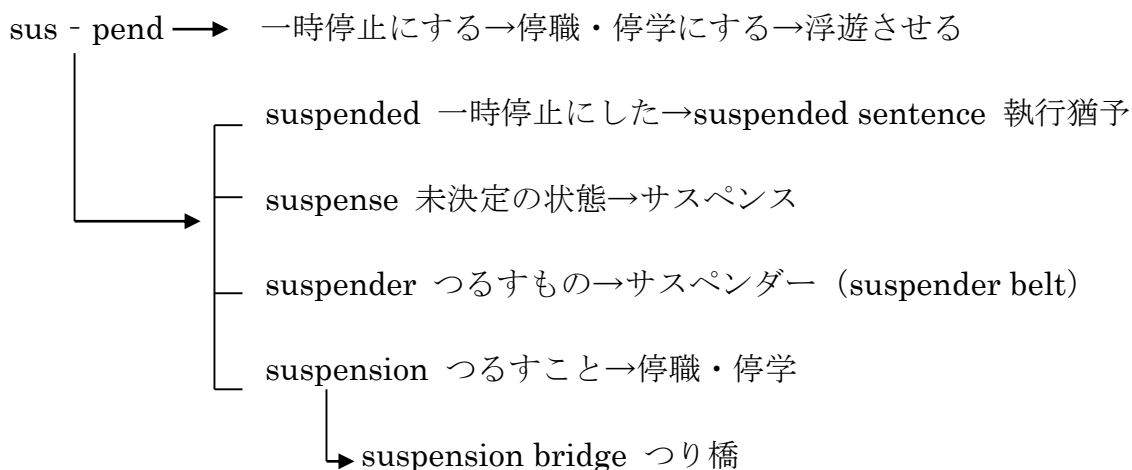
「打者を歩かせた」 He walked the batter. / 「(捕手が) シグナルを送る」 The catcher gives the signal. / 「(ピッチャーが) 首をふる」 The pitcher shakes him off. / 「三塁コーチがサインを出す」 The third base coach flashes a sign. / 「監督がダッグアウトから出てくる」 The manager is coming out of the dugout.



このようにリストするだけで、日英語の違いもわかるし、野球用語として整理されていく感じがしますね。リストがある程度長くなったところで、試合、球場の配置、打者・投手、キャッチャー、走者、監督・コーチなどに関連する用語を分類していくと、野球用語の英単語ネットワークを作成することができると思います。

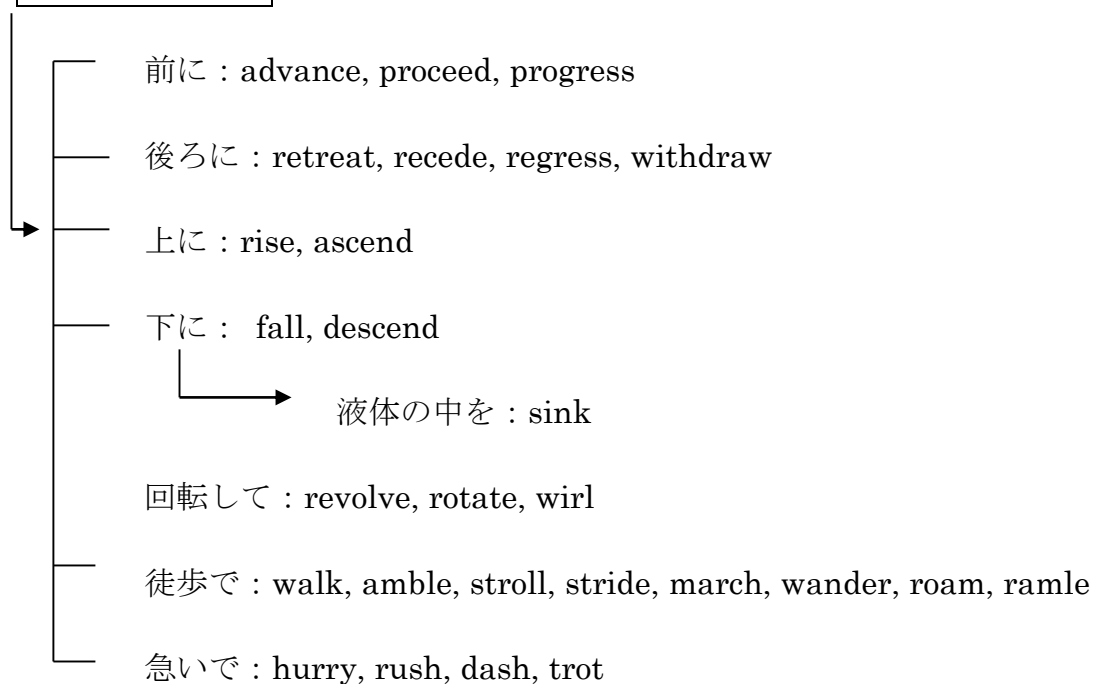
## 個人の場と個人の関心

しかし、英単語ネットワークといっても、実際、どうやってネットワークしていけばよいのでしょうか。分類する方法はいろいろありますね。形式的な分類もあれば、意味的な分類もあります。語源や接頭辞・接尾辞や派生語などで分類するというのも1つ、知覚動詞、移動動詞、取引動詞などのように概念的に分類するのも1つです。例えば **suspend** なら **sus-** + **-pend** に分かれ、**sus-** は「下に」という接頭語です。そして、**-pend** は「つるす」という語幹ですね。「何かを下につるす」というイメージが **suspend** にはあります。**suspend** に関連する語としては、**suspended**, **suspense**, **suspender**, **suspension** があり、以下のようにネットワークすることができます。



これは派生語に注目した分類です。概念的分類の例としては、例えば「移動動詞」ということで以下のように整理する方法があります。

## 移動動詞： move



移動するといっても「前後、上下」あるいは「回転して」「歩いて」「急いで」などに分類することができます。動詞のネットワークにはこうした概念分類が有効だと考えます。

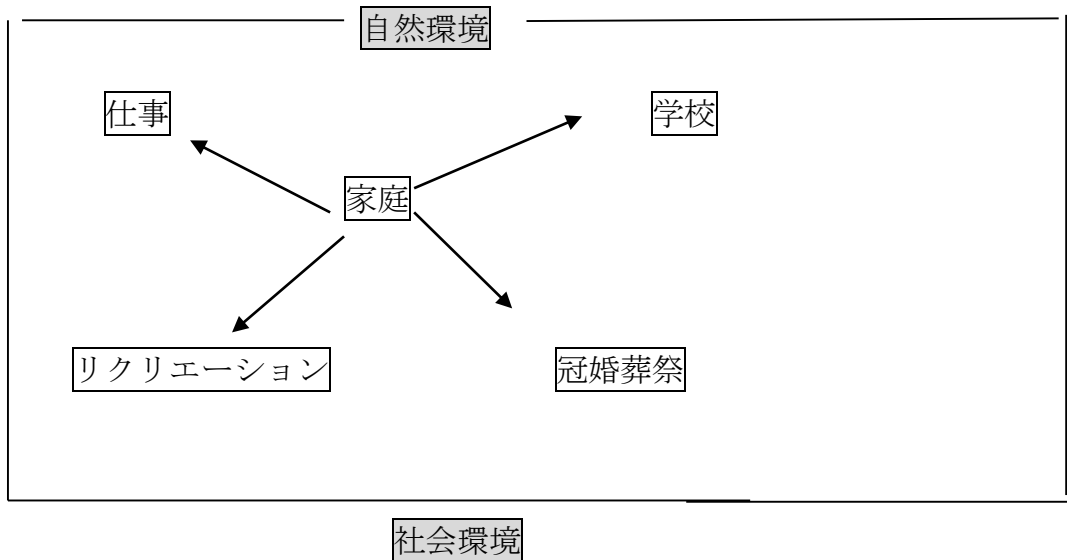
話題に基づく分類について、簡単な例でいえば、「哺乳類動物」ということで、以下のようなリストを作成するのも1つです。

anteater アリクイ armadillo アルマジロ baboon ヒヒ bat こうもり  
bear クマ camel ラクダ coyote コヨーテ …

同時通訳者は、通訳の内容に関する語彙の日英対照表のようなものを作り、それを覚えこむことで、効率的に通訳を行うということを聞いたことがあります。考え方は同じですね。自分が関心のある話題を取り上げ、リストするというやり方です。しかし、分野別リストと本稿で考えている英単語ネットワークは少し違っています。

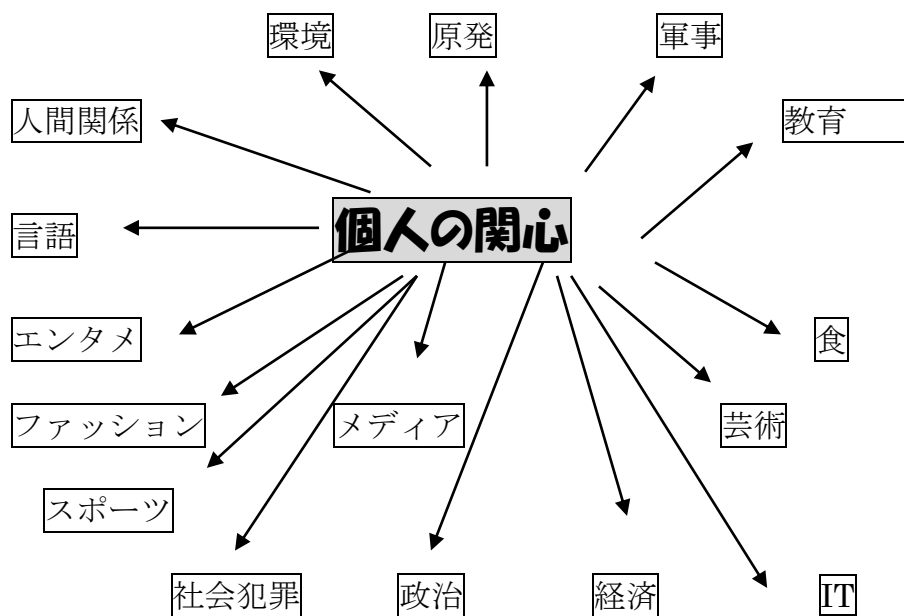
リストは、専門用語集のように分野で使う用語を収集したのですが。英単語ネットワークという場合、その中でさらなる分類を行い、リストにある種の構造を与えることが求められます。

英単語ネットワーク作成のための、ぼくの考え方（理論）について少し説明しておきます。まず、英語学習者、英語使用者としての個人を想定します。そして、個人の視点から、個人の活動の場と個人の関心を分けて、英単語ネットワークのあり方を考えます。まず、「個人の活動の場」を図式的に表せば、以下のようになります。



人間は環境の中で生きています。ここでいう環境は自然環境だけでなく時々刻々と変化する社会環境も含まれます。さて、そうした環境の中で、環境と相互作用しながら生活していく中で、家庭が個人の場の中心になります。ここでいう家庭は一人の場合も複数人の場合も含まれます。衣食住の中で住の中心としての家庭に軸足を置きつつ、年齢によって仕事場あるいは学校が外でのメインとなる活動の場です。専業主婦の場合には、家庭が中心かもしれません。そして、仕事あるいは学校とは別の場が2つあります。その1つはリクリエーションの場です。ゴルフ、公園、映画、スポーツ、旅行などがリクリエーションに含まれます。そしてもう1つは冠婚葬祭の場で、これはやや特殊な場といえるでしょう。いずれにせよ、人は、自然・社会環境内でいくつかの主要な場（domains）を持ち、そこでさまざまな活動をしています。

一人ひとりの活動の場は上記の通りですが、「個人の話題の関心」というものもあります。個人の関心は多岐に亘ります。どのように分類するか、それ自体が大きなテーマですが、スポーツ、食、経済、エンタメ、環境、教育、軍事、社会犯罪、ファッション・流行、人間関係、政治、メディア、原発などがあります。



個人の関心を話題として取り上げたとき、その話題を語るための表現が必要となります。これが本稿でいう拡張語です。基本語はどの話題にも関係なく言語活動の基盤を成すものですが、拡張語は、活動の場か話題の関心に関連しています。

英語で拡張語力を身に付けるために、語彙の関連づけが必要です。そして、関連づけのことを本稿ではネットワークを作成するという言い方をします。ネットワークは何かについてのネットワークです。その「何かについての」の部分を「個人の活動の場」と「個人の話題の関心」の2つの観点から捉えるのがよい、というのがぼくの考えです。

## 英単語ネットワークはリストと違う

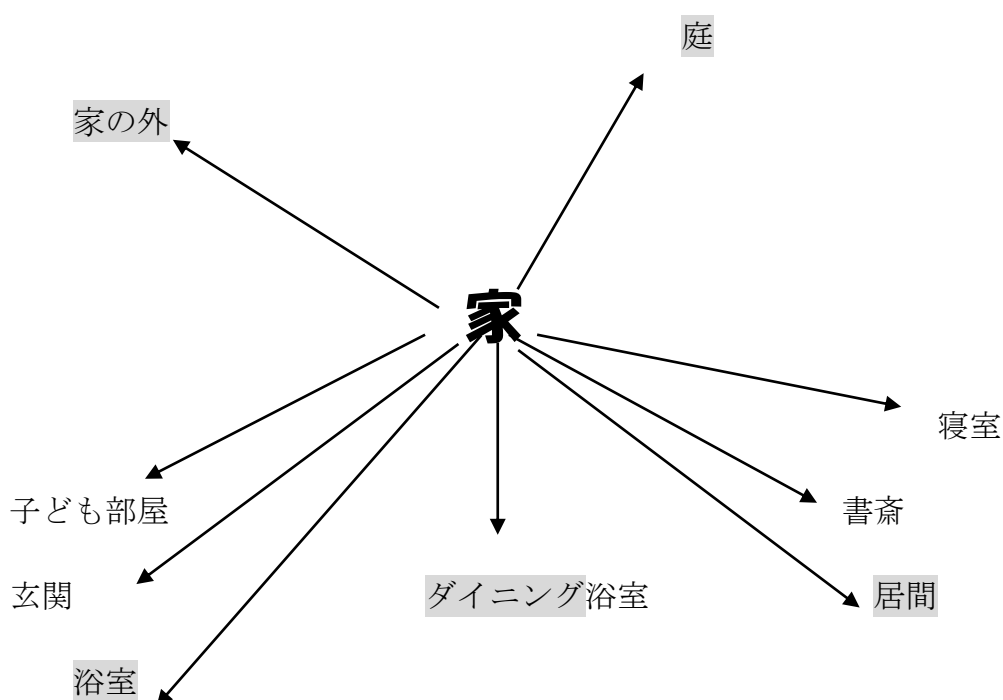
さて、英単語ネットワークはリストとは違います。ネットワークは点と点を繋ぐ作業 **connecting the dots** が必要です。そして、リストを超えたネットワークを作成にはその作成のための指針が必要です。その指針となるのが、上記の「個人の活動の場」と「個人の関心」という考え方です。そして、この考え方から、二種類の英単語ネットワークを考えることができます。「事物配置型のネットワーク」と「話題展開型のネットワーク」です。事物配置型のネッ

トワークは個人の活動の場に関係し、話題展開型のネットワークは個人の話題の関心に対応します。

## 事物配置型ネットワーク

事物配置型ネットワークでは、まず、活動の場所あり、そこにさまざまな事物が置かれているといった世界の英単語ネットワークです。大きなフレームからどんどん小さなフレームにしていくことで、精度の高いネットワークを作ることができます。例えば「自宅」の様子を思い浮かべてください。「家庭」に関する語彙のネットワークを作るとします。まず家の周りとお家の中に分かれます。家の周りといっても庭や駐車場、お家の中といっても、玄関、浴槽、台所などの配置関係を用意に頭で描くことができますね。そして「庭」に注目すれば、庭にあるモノをリストすることができるでしょうし、庭で行う行為をリストすることができるでしょう。これがネットワークになるのは、「家庭」を話題の中心として、外、内、そして内なら玄関、浴槽といった具合に、関心の焦点を移していくこことができるからです。これは「事物配置型のネットワーク」だといえます。

ここで少しシミュレーションをしてみましょう。まずラフなネットワークの全体像は以下のようになります。



いくつかの領域について事物と英語表現をリストしてみましょう。まず「家の周りに何があるか」を思い浮かべてみましょう。すると、以下のようなものが連想されるのではないのでしょうか。

#### 家の周りに関連した表現

backyard	裏庭
driveway	ドライブウェイ
fence	垣根
floor plan	間取り
front door	玄関のドア
front walk	前道
front yard	前庭
garage	車庫
garage door	車庫の戸
gutter	雨樋
mailbox	郵便受け
porch light	ポーチの電灯
roof	屋根
screen door	網戸
steps	階段
storm door	雨戸
TV antenna	テレビのアンテナ
shutter	シャッター
window	窓

今度は、「庭」 garden / yard に注目してみましょう。ここでも、いろいろなものが浮かび上がってくると思います。以下のその例です。

#### Garden / Yard

barbecue grill	庭	バーベキューグリル
compost pile		堆肥の山
flowerpot		植木鉢
garbage can		ごみ入れ
hedge		生垣
hedge clippers		木ばさみ
hose		ホース
deck		ウッドデッキ

patio	テラス
patio furniture	テラス用家具
pruning shears	刈り込み用植木ばさみ
rake	熊手
shovel	シャベル
sprinkler	スプリンクラー
trowel	スコップ
watering can	じょうろ

こんどは家に入って「浴槽」に何があるかを考えてください。実際に、「浴槽」に注目してみましよう。

## 浴室

A Bathroom	風呂場
bath mat	バスマット
bath towel	バスタオル
bathtub	浴槽
cold water	水
drain	排水口
faucet	蛇口
hamper	洗濯物かご
hand towel	ハンドタオル／手拭
hot water	お湯
medicine cabinet	戸棚
mirror	鏡
rubber mat	ゴムマット
scale	体重計
showerhead	シャワーヘッド
sink	洗面台
soap	石鹸
soap dish	石鹸箱
tile	タイル
toilet brush	トイレトブラシ
toilet paper	トイレトペーパー
toothbrush	歯ブラシ
toothbrush holder	歯ブラシ立て

towel rack	タオルかけ
washcloth	身体を洗うタオル
wastebasket	くずかご

今度は居間（living room）です。ここでも居間にあるものを連想してみましよう。

## 居間

bookcase	本棚
painting	絵画
floor lamp	フロアランプ
drapes	カーテン
window	窓
house plant	観葉植物
sofa/couch	ソファ
throw pillow	クッション
end table	サイドテーブル
magazine holder	雑誌入れ
armchair/easy chair	ひじかけ椅子
TV (television)	テレビ
carpet	カーペット

このようにいろいろな部屋に関心を移し、そこに何が置いているかを英語にしていくと、家関連の英単語ネットワークを作成することができます。日本と英語圏の文化の違いだとか表現の違いにも注目しておきたいですね。

日本では「一戸建て」という言い方がありますが、英語では、**a detached house** あるいは **a single-family residence** といいます。「平屋」は **a one-story house** あるいは **a house with [of] one story** といい、「二階建て」だと **a two-story house** となります。「アパート」は **an apartment house** ですね。

日本のマンションも英語では **apartment** です。英語でも **a mansion** という言い方がありますが、これは「個人の大邸宅」のことです。「高級分譲マンション」に相当するのが **apartment** ですが、**a condominium** という言い方もします。日本語でも使いますね。「高層マンション」は、**a high-rise**



apartment (building) といいます。「ワンルームマンション」に相当するのは an efficiency あるいは a studio です。ちなみに、4室あるマンションなら、a four-room apartment といいます。「団地」は集合住宅なので、a housing complex といいます。

日本家屋固有の表現は英語にはなかなかしにくいですが、以下はその例です。

わらぶきの家 a thatched house / 畳 a thick straw mat covered with thin, neat rush matting / 掛け物 a pictorial or written scroll hung on the alcove wall / 障子 a sliding thin-paper door / ふすま a sliding thick-paper door / 敷居 a doorsill / 屏風 a folding screen / etc.

もちろん、英語で表現しても生活実感がなければ何のことか正確にはわからないのは当然です。日本のものを英語で表現するというのは、創造的に英語を使う訓練としてはいいかもしれませんね。

いずれにせよ、このようにして、玄関、書斎、浴室、寝室など領域 (domain) を決めてそこに何があるか、あるいはそこで何をするかを整理していけば、体系的な語彙の学習に繋がりますね。事物だけでなく、場所での行為についても整理していくことができるでしょう。以下はその例です。

### [玄関で行う行為]

玄関をノックする」 knock on the door、「玄関のベルを押す」 ring the door bell、「のぞき穴からのぞく」 look through the peephole、「戸を閉め、鍵をかける」 close the door and lock it、「戸締りをする」 check the lock、「靴を脱ぐ」 take off one's shoes、「靴をはく」 put on one's shoes、「靴べらをつかってはく」 put one's shoes on with a shoehorn、「靴紐を結ぶ」 tie one's shoes、「靴紐をほどく」 untie one's shoes、「靴をみがく」 polish one's shoes、「靴をしまう」 put one's shoes on the shoe rack、「夫を見送る」 see one's husband off などが容易に連想できますね。

### [家の周りで行う行為]

「芝生に水をやる」 water lawns、「草むしりをする」 weed the grass、「芝をかる」 mow the lawn、「ゴミを出す」 take out the garbage、「落ち葉をはく」 rake the leaves、「車の掃除をする」 clean the car、「窓を洗う」 wash the windows などでしょうか。

## [家事として行う行為]

「掃除する」 clean the house、「布団をほす」 air out the bedding、「布団をたたんで、押入れにいれる」 fold up and bedding and put it in the closet、「針に糸を通す」 thread a needle、「縫い物をする」 do the sewing、「ミシンをかける」 use the sewing machine、「ボタンをつける」 sew on the button、「シャツにアイロンをかける」 iron shirts、「家具のほこりをとる」 dust the furniture、「ゴミを拾う」 pick up the rubbish、「モップをかける」 mop the floor、「床をはく」 sweep the floor、「カーペットに掃除機をかける」 vacuum the carpet、「家計簿をつける」 do the household accounts、「風呂の水を流す」 drain the tub、「湯を入れる」 turn on the hot water、「トイレの水を流す」 flush the toilet、「机の上を片付ける」 clean the top of the table、「洗濯機に洗剤を入れる」 put the detergent in the washing machine、「米をとぐ」 wash the rice、「弁当をつくる」 make one's lunch、などなど。

こうした行為もネットワーク図の関連部分に事物名とともに貼り付けていけばいいですね。

## 話題展開型ネットワーク

もう一つの種類は、環境問題や政治といった話題の場合です。「家庭」の場合は、物事の配置がはじめからあり、それについて語彙をあてていくという作業ができます。しかし、環境問題が話題の場合、はじめから構造があるわけではありません。構造を作る必要があるのです。そうしないと、英単語ネットワークは作れません。そこで本稿では、話題展開型のネットワークと呼びます。

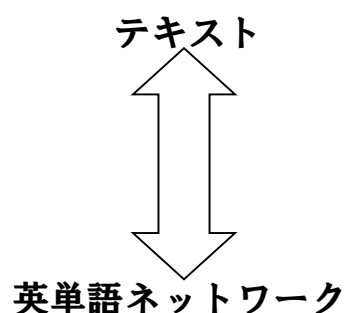
例えば、環境問題についての使われる語彙をリストすることは、コンピュータでテキスト分析すればむずかしいことではありません。それを頻度順、アルファベット順に並べることも、そして語彙の用例を示すこともむずかしいことではありません。しかし、環境問題の英単語ネットワークを作成しようとするれば、環境問題のストーリーを作る（話題を展開する）ことが必要となります。自分の必要に応じて、環境問題のいろいろな側面に強弱濃淡のアクセントをつけて、語彙を整理していくということです。環境問題の原発事故に関心があれば

ば、そこに強調点を置くでしょう。地球温暖化に興味のある人は、それについて語る語彙を充実させたいと思うでしょう。

## おわりに

英単語ネットワークは体系的で有意義な語彙の整理の仕方です。その産物として手にすることができます。しかし、それを自分のものにする、つまり、拡張語力にしていくには、外在するネットワークを自分の中に内在化する必要があります。そうしてできたネットワークをメンタルネットワークと呼ぶことができます。

英単語ネットワークを作成すれば学習しやすくなるでしょう。しかし、それを自分のメンタルネットワークにしていくには、本物のテキストに当たることが不可欠です。実際に、テキストを読んでいくと英単語ネットワークに載った語句がたくさんでてくるでしょう。その語句に注意を向けることで、内在化が進むでしょう。もちろん、英単語ネットワークとテキストを相互作用させるといふか、相互媒介的な関係に置くことが必須です。



つまり、英単語ネットワークを媒介してテキストを読む、そして、テキストを媒介にして英単語ネットワークを確認し、アップデートしていく、という関係です。

私たちは分類する力を持っています。この分類力を最大限に発揮して、独自の英単語ネットワークを作成しつつ、英文を読む。この相互作用的な行為を通して、本当の意味での拡張語力は身に付くのだと思います。

